

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：1. 入学生から適用の新カリキュラムを円滑に運営する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
新カリキュラム	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地実習は旧カリキュラムでは助産院に限定し実習をしていたが、新カリキュラムでは病院でも行えるようになり、フレキシブルな対応が可能となるよう実習方法を変更した。</li> <li>・実習施設により実習可能日数が異なるため施設と調整を行った。特に分娩介助については、24時間体制であり、土日祝日もオンコール体制の実習となることから、学生の体調管理及び精神的サポートを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師助産師看護師学校養成所指定規則（以下「指定規則」という。）では分娩介助は10回程度となっている。</li> <li>・分娩介助について、卒業生25名中18名が10件、7名は9件実施した。</li> <li>・講義に関しては全員が単位認定試験に合格した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの講義・実習とも25名全員が単位を修得することができた。</li> <li>・実習に関しては、全国的に分娩数が減少している中で分娩介助10件は、一か所の実習施設では困難なことが多い。</li> <li>・早期からの助産院への追加実習依頼と病院実習開始直後からのオンコール体制を整備した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩介助について、実習施設と学校とで密に調整することで、ほぼ10件実施することができたことや、講義について、全員単位修得ができたは大変評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病院12施設により分娩件数、実習期間、実習可能時間、指導体制等は異なる。</li> <li>・今後も学生全員が実習目標を達成できるよう細かな調整をしていく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
新カリキュラム	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度入学生(1年次)から新カリキュラムが適用となり、計画通り実施した。</li> <li>・令和3年度以前の入学生のうち、旧カリキュラムでの1年次科目の単位未修得の学生については、該当の旧カリキュラムを設置していないことから、新カリキュラム内容に読み替えての履修となるが、学生に不利益がないよう、読み替えができなかった5科目に関しては補講を実施した。</li> <li>・令和3年度以前に入学し旧カリキュラムが適用された学生が、新カリキュラムの科目に読み替えて履修する場合、複数の科目を履修する必要性が出てくることもあり、エラーのないよう読み替え表と履修科目チェック表を用い、複数教員で確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラムの下で、13名の科目履修生が旧カリキュラムの1年次開講科目を再受講し、全員が単位修得に至り、目標を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の旧カリキュラムに関しては、対象の全科目履修生が単位を修得できた。</li> <li>・新カリキュラムへの読み替えは、科目読み替え表を作成し、県医療課への相談と確認を繰り返した。また、新カリキュラムでの履修が不可能な科目は早期から補講を計画し実施した。</li> <li>・読み替え表に基づき複数の教員で履修科目の漏れがないことを複数回確認したことで、事故なく全員が1年次単位の修得に至った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧カリキュラム適用の学生が単位修得できなかった場合、カリキュラムを読み替えての履修や補講で対応することができたことは大変評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度は1、2年生が新カリキュラムにより学習することとなる。新たに領域横断科目の開講もあり、各領域間での調整を進めていく。同時に令和3年度以前に入学した学生が漏れなく全ての単位修得ができるよう、2年次、新カリキュラムで読み替えができなかった旧カリキュラムの3科目の講義と2科目の実習は補講および補習実習を計画・実施していく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないよう学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
新型コロナウイルス感染拡大対策	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の継続的な健康管理を実施した。また発熱・症状がある場合は、速やかに受診行動及びPCR検査もしくは抗原検査を実施することを指導した。</li> <li>・各学年では、視聴覚教材を用いて新型コロナウイルス感染症の予防対策に関する学習会を実施した。</li> <li>・学生は、各自70%以上のアルコールシートを持参し、使用した教室(机・椅子)の消毒を行った。</li> <li>・食事は、黙食を継続した(現在も継続中)。</li> <li>・基本的に不織布のマスクの着用と必要時はフェイスシールド、実習期間中は施設の指示に従いN95マスクを着用した。</li> <li>・3回目以降の予防接種を推奨した。</li> </ul> オミクロン株対応ワクチン接種についても継続して学生・保護者への丁寧な説明を実施し協力を依頼した。学生は各自で接種行動をとり担任への報告を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染の流行状況に合わせた健康チェックの実施と対策に努めた。</li> <li>・学内及び実習中に学生間でのクラスターは発生しなかった。</li> </ul> (助産師学科) ・本校入学以前に看護学科で、または臨床時代にワクチン接種を行っており、さらに9月の実習開始前には各自で予防接種を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大状況となつてから既に3年目となっていることから、感染対策に関して、教職員・学生・保護者の意識が高く、協力が得られ家族からの感染拡大や学内・実習グループ間でのクラスターは発生しなかった。</li> </ul> (看護学科) ・2、3年生のほとんどの学生、1年生は1/2の学生が接種を終了した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークや演習でのコロナ対応について、学校の方針を示したことは評価できる。</li> <li>・クラスター発生を防止し、予防もできている。5類になっても気を緩めずに対応してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健安全法施行規則の一部改正により、感染予防対策が緩和されることにより、感染リスクが高まる可能性が考えられる。</li> <li>・今後も医療機関と同様にマスクの着用、換気、手指消毒などの対策を継続していく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないよう学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
講義	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大対策のもと安全に講義・演習を実施した。</li> <li>・感染拡大対策としては、学生は各自でアルコール70%以上のアルコールシートを持参し、使用した教材物品等の消毒を実施した。</li> <li>・教室・実習室の換気を徹底し、学生・講師(教員)は、不織布マスクの着用を徹底し、感染拡大の状況によっては、フェイスシールドを着用したうえで講義及びグループワーク・演習を実施した。</li> <li>・コロナ感染者発生時の対応としては、学生及び教員に感染者が発生した場合、コミュニケーションツール(以下「Teams」という。)での全教職員への周知と濃厚接触者の特定により、その後の感染拡大防止に努めた。</li> <li>・感染し、授業や実習に影響があった学生に関しては、速やかに補講・追試験を実施したことで、感染による療養が単位修得に影響することはなかった。</li> </ul>	<p>(助産師学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を計画通り対面で実施した。</li> <li>・学生のコロナ感染者は数名いたが、療養期間後、登校日にただちに補講や追試験を実施し、全員が単位修得した。</li> </ul>	<p>(助産師学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補講・追試験はタイムリーに実施できた。</li> <li>・助産学実習が開始すると、24時間待機等で学生が学内に戻ることには各施設との調整等で難しいことから、実習開始(9月)までに補講・定期試験を行うことで感染者も含めた単位修得につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が新型コロナウイルスに感染しても、補講や追試験を適宜実施し、全員、単位修得することができたことは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では医療機関と同様の感染予防対策を行うことから、関係者への理解と協力を得ることが必要となる。</li> <li>・外部講師に対して引き続き丁寧な説明を行い理解と協力得る。</li> <li>・学生の単位修得に関しては、学年のサポートとは別に令和5年度より学習サポートチームを発足し、低学年より学習習慣の定着と学力向上に向けて個別的な指導の強化を図っていく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
講義		<p>(看護学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要時に遠隔授業を実施した。</li> </ul> <p>1年生の病理学以外の科目に関しては、内部・外部問わず全て対面での講義を実施した。病理学(8月～12月:30時間)は、遠隔授業を実施した。</p> <p>【遠隔授業の割合】</p> <p>1年生:38単位中1単位(1科目)で2.7%、2年生:0%、3年生:0%だった。また学年成績平均値は、1年生:78.4点、2年生:79.4点、3年生:81.5点であった。</p>	<p>(看護学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位未修得を昨年度と比較すると大幅な変化はみられない。</li> </ul> <p>【単位未修得者の割合】</p> <p>1年次 14.7%、 2年次 24.0%、 3年次 4.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室・実習室の換気及び消毒・不織布マスク装着の徹底を継続して実施していることで、クラスターが発生することなく安全に講義</li> <li>・演習の実施が行えた。</li> </ul>	<p>(看護学科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業の成績結果は、昨年度と大きな変化はない。学習成果として対面授業との差はなくおおむね理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で対面授業が実施できなかった際も、オンラインによる遠隔授業を実施することができた。遠隔授業であっても対面授業と学習成果に差が見られなかったことには、教員の努力が認められる。</li> <li>・遠隔授業のノウハウを円滑に展開するためにも、また、電子教科書や動画の活用、さらに、学生と双方向で授業の課題や資料のやりとりができるためにも、最低限Wi-Fiの整備が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業を円滑に行うためにも、また、電子教科書や動画の活用、さらに、学生と双方向で授業の課題や資料のやりとりができるよう、引き続き関係部署と調整を行い、Wi-Fiの整備を進める。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないよう学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
実習	共通	・学生の健康管理を徹底し、各実習施設での感染拡大防止対策に則って臨地実習を行った。	・実習中の学生間、教員間の感染拡大することなく実習を継続し、全員が実習目標を達成した。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設と学校間で調整を密に行い、実習中に、感染拡大することなく実習を継続し、全員が実習目標を達成したことは高く評価できる。</li> <li>・コロナ禍でも実習を受け入れていただいたことについて、学生が実習施設へ感謝の気持ちを持ち、それを伝えることで、実習施設側も気持ちよく実習を受け入れることができたことは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病院個々の感染者受入れ体制と医療活動状況により、実習の進め方について調整を密にしながら実習を行うことができた。</li> <li>・実習開始時期が施設によって異なるため、実習開始していない施設の学生は学内でのシミュレーターを使用しての事例実習等を行った。</li> <li>・妊娠期実習は全実習施設での外来実習が可能であったため、N95 マスクの着用等感染対策を行い、計画通りの実習を行うことができた。</li> <li>・分娩介助実習は、分娩進行者の存在とその方の承諾があり成立する。病院によっては、実習期間の短縮、実習時間の制限により分娩進行者の受け持ちを介助途中で実習終了となることもあった。施設の分娩予約者数、また可能な実習時間から、指定規則に定められた10回程度の分娩介助を行うことが困難であることが予想されたため、実習開始早期から病院だけではなく助産院での追加実習を依頼するなど調整した。その結果、産褥・新生児期実習、地域母子保健実習、助産管理実習も感染対策を行い、計画通り実習を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止対策を行いながら全ての実習において、臨地実習を継続し、全員が実習目標を達成し単位修得に至った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設により分娩予約数や実習可能時間が異なるため、施設ごとに実習目標を達成するための具体策を打ち出し、混乱なく実習を進めることができた。</li> <li>・一部の学生は同日に複数施設での実習を行うことがあり、教員のタイムリーな助言がしづらいという課題は残る。</li> <li>・分娩進行者不在の時は学内に戻り、病院と助産院との学びを統合し、それぞれの施設での助産活動の意味づけを行うことにより、以後の実習に活用され効果的であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標が達成できたことは、実習施設からの信頼があり、細やかな連絡調整があつてのことなので、評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も同時に複数施設での実習に取り組んでいくため、それぞれの施設に準じた感染対策を行いながら実習に取り組んでいく。</li> <li>・実習施設・方法も途中で変更することが考えられるため、実習の進め方を複数パターン計画する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
実習	看護学科	<p>・実習施設の健康管理及び実習受け入れの方針を踏まえたうえで、令和4年4月～令和5年2月の実習を実施した。</p> <p>&lt;3年次&gt; 各領域実践論1～6クールで、1クール目の成人看護実践論で、7.1%の学生が学内実習に変更となった。また統合実習で21.7%の学生が一部の日程で学内実習に変更となった。</p> <p>&lt;2年次&gt; 成人看護実践論Ⅰでは45.3%、老年看護実践論Ⅰでは、全学生が45時間中21時間、老年看護実践論Ⅱでは6%の学生が学内実習に変更となった。</p> <p>&lt;1年次&gt; 基礎看護実践論Ⅰでは17%、基礎看護実践論Ⅱでは20%の学生が学内実習に変更となった。</p> <p>※学内実習の取り組みとしては、紙上事例での看護過程の展開については、教育用電子カルテを活用し、より臨床に近い状況設定を行った。更にシミュレーターを活用した実践や、視聴覚教材を活用したリフレクションを行った。また本校では、教職員による模擬患者・指導者役を設定し臨地実習に近い環境の設定を行うことで、患者とのコミュニケーションがよりリアルに体験できるように調整した。</p> <p>※各実習施設の健康管理の条件に合わせて健康管理を徹底した。</p>	<p>・感染拡大状況により実習施設の方針に合わせ学内実習を実施した。学内実習は昨年度の状況を踏まえ、対策を講じていたことから臨地実習での学びと差異が無い状況で実施できた。また追・補講実習の対象学生に関しては実習施設と連携を図り滞りなく実施できた。</p> <p>臨地実習実施率※概算 3年次 95.9% (604時間/630時間)、2年次 68.1% (187時間/270時間)、1年次 81.5% (109時間/135時間)</p> <p>・追・補習実習は、基礎看護実践論Ⅰは5名、基礎看護実践論Ⅱは3名、成人看護実践論Ⅰは6名(追3名+補習3名)であった。</p> <p>・感染症対策・健康管理の徹底により、臨地実習および学内実習において集団感染はなかった。</p>	<p>・感染対策及び健康管理の徹底により、ほとんどの学生が各実践論の目標を到達することができた。</p> <p>・実習期間中にコロナ感染により影響を受けた対象学生に関しては、追実習・補講等で学びの保障を行った。</p> <p>・学内実習においては、シミュレーターや教育用電子カルテを活用しつつ、教職員による模擬患者・指導者役を設定し臨地実習に近い環境の設定を行うことで、学びが深まったと考える。</p>	<p>・施設での実習が中止になり、学内実習に変更になったりしても、円滑に対応できたことは評価できる。</p>	<p>・今後も引き続き、各施設の感染対策に応じて健康管理を徹底し、必要な単位を修得できるよう支援する。</p>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないように学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (学年)	共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談の環境が整備されており、スクールカウンセラー2名と教育担当副校長が担当している。どちらも学生便覧に記載があり、入学時の学校案内で利用方法を周知している。カウンセリング申し込み方法は、3年前よりネット上で予約可能となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の家族と連携しての学生支援ができたと考えている。</li> <li>・スクールカウンセリングを年間54日開室し、56名が利用した。さらに36件のメール相談を受け、早期の段階での支援を行った。また、必要時、専門医への橋渡しを行うことができた。</li> <li>・学習面に関しては、保護者と連携を密に取り、協力体制が整っている。</li> <li>・経済面に関しては、学生からの申し出があった場合は、早急に学事課・管理課と連携し対応することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年前よりスクールカウンセリングをネット予約できるようにしたことで、活用率が増加し、必要時は早期から専門的な医療機関へ移行することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセリングをネット予約できるようにしたことで、学生が利用しやすくなったことは高く評価できる。</li> <li>・スクールカウンセラーの相談など、学校における相談は授業など学校に関係することしか受け取ってもらえないと思いついていた学生が見受けられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神面の支援に関しては、引き続きスクールカウンセリングを活用し、必要時は早い段階から専門医師への受診を勧めるなどの支援を行う。</li> <li>・学生に対し、スクールカウンセラーなどの学校での相談は、プライベートな内容も含め、相談内容に制限がないことの案内方法を見直す。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (学年)	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時に助産師学科の学習の特色(24時間待機での分娩介助や継続事例の休日・時間外での実習等)と協力を得たい支援について文書でお知らせし、必要時に家族と連絡を取り学生のサポートを行った。家族からの質問や要望には適時説明を行なった。また学業が困難な状況が生じた場合や、個別に対応が必要な場合は家族と適時連絡を取り連携を図った。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間待機での実習は心身ともに負担があり、今後も家族とともに学生を支えていく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (学年)	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を動画での視聴とし、感染状況に留意した個別面談なども工夫した。</li> <li>・対面での授業参観なども取り入れ、日頃の学習状況が伝わるように工夫した。</li> <li>・学生から現在の学習状況が保護者に分かるように定期試験の結果によって個別で伝達できる機会を設けた。</li> <li>・必要時、保護者面談や祖父母面談、三者面談など学生の課題や状況により変容して対応した。</li> <li>・入学時には、保護者向けに学校生活や教育活動についての詳細を文書で配布し、学生の学習支援への協力を依頼している。</li> <li>・経済面の支援としては、入学前ガイダンスや掲示・クラスルーム等で、修学資金に関する情報提供を学事課より行った。</li> <li>・入学時および進級時(年度始め)に、学生と個人面談を行い経済状態について相談を受ける環境を整えた。必要時、学事課・管理課と連携し、学生に提供できる制度等、相談に応じている。(奨学金、学生支援緊急給付金など申請支援)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者数は、1年生で12名、2年生で2名、3年生で1名であった。</li> <li>・休学者数は、1年生で、3名、2年生で3名、3年生で1名であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習面に関して、各学年で学習サポートチームを発足し、保護者との連携を密に行ってきたが成績結果には反映できていない。</li> <li>・退学者数は、昨年度よりも5名減少しているが、1年次の退学者が多いことは課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の退学者が多いことには、様々な理由があると思うが、入試の面接の時に、学習の厳しい面をきちんと伝えることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学者の主な理由は、成績不振である。従って、学習面でのサポートが急務であると考え、令和5年度から新たに学年担当とは別に、学習サポートチームを立ち上げ1年生から3年生までの学習支援が必要な学生に対し、学年横断的に丁寧な支援を年間計画のもと実施する。</li> <li>・退学者を減らすため、引き続き学校説明会、学校見学会、入試面接、入学前ガイダンス、入学後の面談等あらゆる機会を通じて、学生生活や学生の心構えについて丁寧な説明をすよう努める。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないように学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (国家試験)	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前から課題を送付し、入学後に提出された課題の取組み結果を踏まえ、解剖生理の授業で理解が不十分な学習項目を補うなど、その取組みを強化した。</li> <li>・入学後に、模擬試験の実施2回、前年度の国試出題傾向の分析と授業内容の調整、国試対策アプリの活用、学生の精神的支援を目的とした面接等、年間を通して実施した。</li> <li>・学生全員に対して、国試1か月前に助産学全般、関係法規、薬理の国試対策補講を実施した。</li> <li>・各試験結果により成績が振るわない学生に対するサポートとして、少人数制での補講を3回追加で実施した。その他、希望者に対して、国試直前集中講座の受講を支援した。</li> </ul>	国家試験合格率 100%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業・実習のすべてが国家試験対策といえる。</li> <li>・入学前課題の実施は学生の知識確認において、とても効果的であり、入学後の学習支援の方向性も決まることから、継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験の合格率が高く維持されていることは、教員が積み重ねてきた指導の成果が表れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前からの取り組みを含め、国家試験対策を継続していく。</li> </ul>
	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年4月に国家試験ガイダンスを実施し、新たに国家試験学習支援コンテンツ(WEB)を導入し実施した。</li> <li>・1年次は、学力に応じた学習支援として入学時学力診断テストと基礎力リサーチを実施した。</li> <li>・2年次は国家試験特別講座を4月・8月・3月に、模擬試験を4月・8月・1月・2月に実施し、模擬試験実施後は、外部講師による解説ゼミを実施した。</li> <li>・3年次は、年3回の模擬試験と模擬試験解説講座の実施、外部講師による160時間の学力別国家試験対策講座を実施した。</li> </ul>	国家試験合格率 98.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染状況に応じてICTを活用した国家試験対策を準備しつつ、対面での対策講座が実施できた。</li> <li>・対策内容及び対策時間は昨年度よりも多く確保できていた。しかしながら目標とする合格率100%には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時の学力診断や学習サポートなどの取組を進めていることは評価できる。</li> <li>・1年次に学習の仕方が分からないで、2年次、3年次で挽回したという学生もいる。そういう学生を早く察知して対応すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前の学習準備支援について検討する。</li> <li>・学習サポートチームにより丁寧な学習サポートを実施する</li> <li>・1年次は学習習慣が身に付くように支援する。1、2年次は学力に応じた学習支援を行う。2年次は必修問題対策を強化する。3年次は国家試験対策を計画し実施する。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度（2022年度）学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学前の学習準備について、例えば、高校在学中に高校の協力を得て学習課題を出すなど、工夫が必要。</li> <li>・国家試験の合格率が高く維持されていることは、教員が積み重ねてきた指導の成果が表れている。 (再掲)</li> </ul>	

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

重点目標：2. 新型コロナウイルス感染拡大により、学生に学習上の不利益が生じないよう学習内容の充実と教育活動を円滑に実施する。

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (就職試験)	助産師学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度より民間事業者の就職活動ガイダンスを取り入れた。面接方法やエントリーシートの記入法など、学生がすぐに活用できるような内容であり就職試験に役立っている。</li> <li>入学後の面接で就職活動に関するアドバイスも行っている。</li> <li>25名中5名が採用試験で不合格を経験している。県内就業助産師の定着率が向上しており、合格者でも助産師採用ではないことが増えてきた。これらの学生には担任が中心となり精神面の支援を行った。</li> <li>県外からの入学者や県外施設への就職希望者には県内の施設の紹介等、個別対応をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業数25名、就職25名、県内就職率92%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学直後の就職ガイダンスは面接のコツや書類作成などが役立ったとする学生の声があり、効果的であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内就職率を100%にすることが課題である。県立の専門学校として、入学前からの説明に力を入れるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職への支援として、今年度同様入学直後にガイダンスを行う。</li> </ul>
	看護学科	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年での就職ガイダンスに加え、2年次に就職セミナーとして、民間業者による就職マナー講座及び履歴書の書き方講座を設定し、就職活動に備えた取り組みを実施した。</li> <li>学校内に、就職のための資料を置き、卒業生からのメッセージ(写真入り)を掲示した。</li> <li>個別対応としては、各学年でリクルート担当教員を設置し、学生からの相談には面接を実施した。特に3年次の担当教員は、県内施設、実習施設、学生に合った施設、新人教育体制が整っている施設などを勘案し就職活動の相談や履歴書の確認、面接試験の練習を実施した。</li> <li>進学指導については、前年度に受験し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業数71名中、就職65名(91.5%)、進学5名(進学率7%)、本人の意向により就職しなかった学生が1名(1.5%)、県内就職率95.3%であった。</li> <li>2年次より就職ガイダンスや就職マナー講座を行ったこともあり7月の段階では、多くの学生が内定を受けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内就職率が100%ではなかったため、できるだけ県内に就職してもらえよう、低学年から県内の各施設の魅力を伝えていく機会を設ける必要がある。</li> <li>今年度は就職活動を行わなかった学生が居たことから、進学者以外で卒業対象の全ての学生が就職活動に向き合えるように精神的なサポートを行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内就職率を100%にすることが課題である。県立の専門学校として、入学前からの説明に力を入れるべきである。(再掲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も引き続き学生が作成した2022年度の就職受験情報を基に必要な情報の提供を行うと共に県内の実習施設や他施設についても積極的に情報提供し、低学年より神奈川県内での就職について意識付けを行い、学生個々の支援を行っていく。</li> </ul>

神奈川県立衛生看護専門学校 令和4年度(2022年度)学校評価報告書

項目	学科	実施内容	目標達成度	学内評価	学校関係者評価	次年度に向けて
学生支援 (就職試験)		た大学編入試験・助産師学校等の試験の傾向や面接試験の様子をファイルに残し、在校生の参考にできるようにした。また、進学した卒業生からの情報を進学希望の学生に伝えた。			・面接準備や就職に向けての書類作成支援には、しっかりと取り組んでいる。さらに応用がきく指導を期待している。	・引き続き、就職ガイダンス及び業者を活用しての就職セミナー・マナー講座を実施する。  ・引き続き、就職に向けての面接等の指導を行う。学生が、自分の言葉でしっかりと語れるとともに、大学生と比べても劣らないよう、指導を深めていく。

上記評価項目とは別に、委員から出された意見

【入学者数について】

- ・令和5年度の看護学科の定員120名に対し、入学者数が79名で充足率が66%にとどまっていることは問題である。
- ・対応策として、次のようなことを検討すべきである。
  - ① 高校生が入試情報や学校情報を得るための重要な手段となっているホームページの充実
  - ② 受験生が受験しやすいよう入試科目など入試の実施方法
  - ③ 助産師を希望する高校生に対し、大学に進学するより最短で行けるコースがあることを強くアピールするなど、特徴を効果的に発信すること

【助産師学科の学内公募について】

- ・助産師学科の定員40名のうち学内公募入学の枠が20%程度あるのに、令和5年度の応募者がゼロであったことは問題である。

※ 助産師学科の学内公募入学の令和5年度に応募者がゼロであったのは、希望者はいたが、成績要件を満たさなかったことが原因である。学校としても重く受け止め、令和6年度入試では成績要件を見直している。